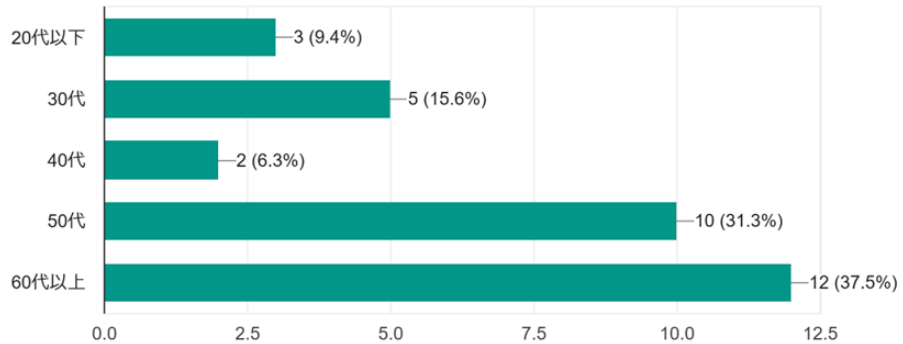


「北海道砂防計画論(1988)」についての認知度や課題等について 令和5年10月実施

アンケート結果からの読み取り 1/5 32件の回答をいただきました。回答者の概要

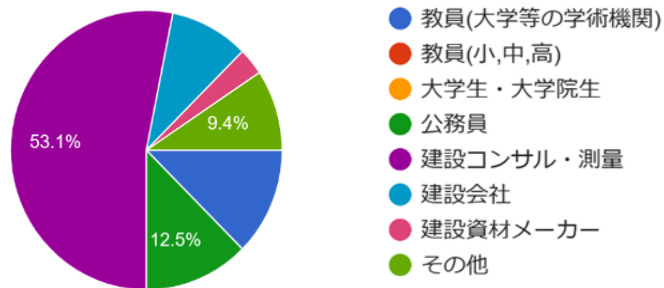
1. 回答者様の属性について教えてください【年代】（選択回答）

32件の回答



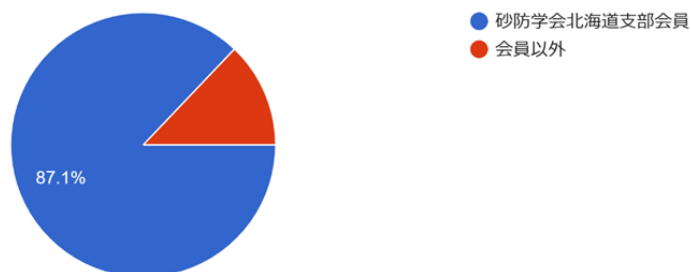
1. 回答者様の属性について教えてください【職業】（選択回答）

32件の回答



1. 回答者様の属性について教えてください【会員】（選択回答）

31件の回答



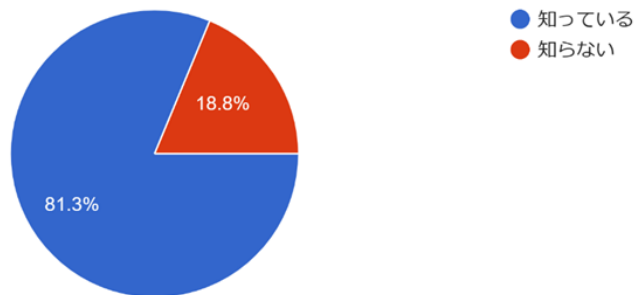
- ・60代以上の方が37.5%と多く、お答えいただきました。
- ・50代以上の方が69%を占め、経験年数が多い方が多かったと推測します。
- ・53.1%の方がコンサル測量設計関係、建設関係、その他、教員(大学等)、公務員の方が10%前後。
- ・支部会員以外からも5名の回答をいただきました。

アンケート結果からの読み取り 2/5

「北海道砂防計画論の認知度」

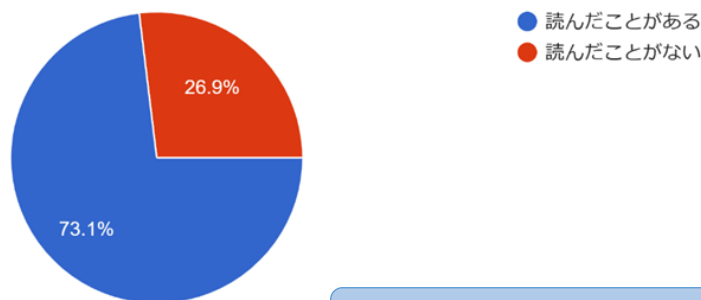
2. 1988年に発刊された「北海道砂防計画論」を知っていますか？（選択回答）

32 件の回答



3. 「北海道砂防計画論」を読んだことはありますか？（選択回答）

26 件の回答



全回答者の内、読んだ割合

本を知っている割合

年代	知る	総数	率
20代以下	1 / 3		33.3%
30代	3 / 5		60.0%
40代	2 / 2		100.0%
50代	10 / 10		100.0%
60代以上	10 / 12		83.3%
計	26 / 32		81.3%

知っている内、読んだ割合

	年代	読む	総数	率
0%	20代以下	0 / 1		0.0%
20%	30代	1 / 3		33.3%
50%	40代	1 / 2		50.0%
80%	50代	8 / 10		80.0%
75%	60代以上	9 / 10		90.0%
59%	計	19 / 26		73.1%

- ・北海道砂防計画論を知っている方は40代以上では92%とほとんど。
- ・60代以上でコンサル・測量関係に所属する方では知らない方もおられました。

・この本を知っている方は7割を超える方が読んでおり、50代以上では85%の方が読んでいます。

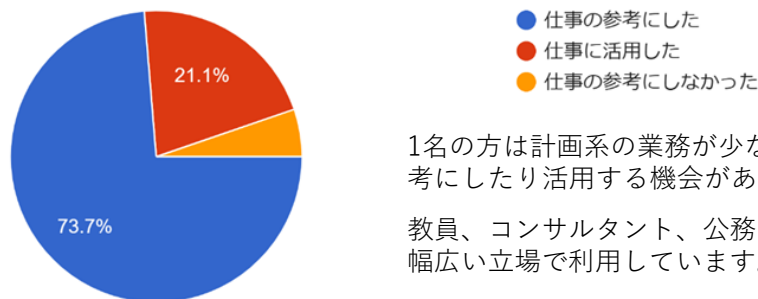
・35年以上前の発刊であり、業務経験が20年以下の方には、内容があまり知られていないことがうかがえます。

アンケート結果からの読み取り 3/5

「北海道砂防計画論の活用」

4. 「北海道砂防計画論」を仕事の参考や活用しましたか？（選択回答）

19件の回答



1名の方は計画系の業務が少なかったため、参考にしたり活用する機会がありませんでした。

教員、コンサルタント、公務員、学生時代と幅広い立場で利用しています。

【活用した内容】

火山砂防と通常砂防の違いを読み解こうとして読んだ記憶があります
第1章、第3章、第4章など
砂防空間を広く確保
ほぼすべて

【参考にした内容】

計画規模
北海道の砂防だけでなく、地域環境的なところも把握できるので、すべて参考になっています。
時間軸を持った地域計画と防災計画の具体化
施設配置における空間エリアの考え方
道内の砂防計画の概要について
書籍の中の砂防施設配置の概念図
火山砂防関係
扇状地対策の関係など
第1章 北海道の砂防河川
第2章 地域特性分析
第3章 地域特性を活かした砂防施設計画

・北海道砂防計画論の内容について、全般にわたって活用、あるいは参考になっているようです。

・北海道の特徴を踏まえ、空間的な概念や時間軸を持った地域計画として参考書となっていることがうかがえます。

アンケート結果からの読み取り 4/5

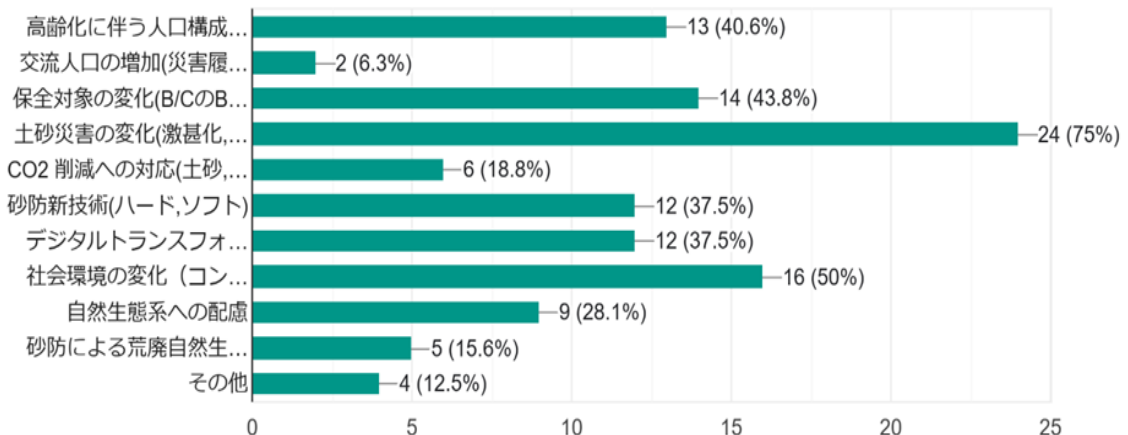
「計画論に反映する際に、重要と思う事項」

順位順

- 1 土砂災害の変化(激甚化,広域複合災害対応等(洪水などによる他の災害との複合化対応))
- 2 社会環境の変化(コンパクトなまちづくりや強靱化など)に対する対応
- 3 保全対象の変化(B/CのBが変化)
- 4 高齢化に伴う人口構成変化(災害弱者の増加、防災の担い手の減少等)
- 5 砂防新技術(ハード,ソフト)
- 5 DX、GXなど新たな技術革新,SDGsに向けた取り組み,地球温暖化対策としてのカーボンニュートラルなどへの対応(ハード,ソフト)
- 7 自然生態系への配慮
- 8 CO2 削減への対応(土砂,水,植生,空間などの山地・流域資源の活用,ソイルセメント等の活用等)
- 9 砂防による荒廃自然生態系の修復
- 10 その他
- 11 交流人口の増加(災害履歴を知らない人口,一時的滞在者増等)

8.「北海道砂防計画論」の発刊から 30

年以上経過しました。今後、北海道の砂防計画に反...次を参照のうえご回答いただければ幸いです。
32 件の回答



重複する内容の選択肢があったと思われますが、土砂災害の変化や社会環境の変化、新技術に関する事項に関心が高かったようです。

今後、北海道の砂防計画に反映する際に、重要と思う事項を下記から最大5つ選んで下さい。													
		高齢化に伴う人口構成変化(災害弱者の増加,防災の担い手の減少等)	交流人口の増加(災害履歴を知らない人口,一時的滞在者増等)	保全対象の変化(B/CのBが変化)	土砂災害の変化(激甚化,広域複合災害対応等(洪水などによる他の災害との複合化対応))	CO2削減への対応(土砂,水,植生,空間などの山地・流域資源の活用,ソイルセメント等の活用等)	砂防新技術(ハード,ソフト)	DX, GXなど新たな技術革新,SDGsに向けた取り組み,地球温暖化対策としてのカーボンニュートラルなどへの対応(ハード,ソフト)	社会環境の変化(コンパクトなまちづくりや強靱化など)に対する対応	自然生態系への配慮	砂防による荒廃自然生態系の修復	その他	
20代以下													
3人	ポイント	1	0	3	2	1	2	1	1	0	0	0	0
	順位	4	0	1	2	4	2	4	4	0	0	0	0
30代													
5人	ポイント	3	0	3	3	1	2	3	2	0	2	1	
	順位	1	0	1	1	0	5	1	5	0	5	8	
40代													
2人	ポイント	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0
	順位	2	0	0	1	0	2	2	0	2	0	0	0
50代													
10人	ポイント	2	0	3	7	1	3	1	4	5	2	2	
	順位	6	11	4	1	9	4	9	3	2	6	6	
60代以上													
12人	ポイント	6	2	5	10	3	4	6	9	3	1	1	
	順位	3	9	5	1	7	6	3	2	7	10	10	

アンケート結果からの読み取り 5 / 5

「その他自由記述」

①砂防の本来の目的は変わらないと考えています。

日本の、また北海道の環境変化により、砂防技術も多様化、細分化して対応していくという内容を網羅したいです。

②新しいものばかり書くのではなく、温故知新の考えで、しっかり過去の内容も載せておきたい。

第9次北海道総合開発計画の策定が間近になっており、行政が主体となった、世界の中の北海道の将来像を見据えた砂防計画論をまとめ、それを具現化するために必要な制度や技術開発を主導して欲しい。

30年間に、火山砂防の新たな考え方や天然ダム対策等が砂防に加わっており、それらの事業の計画論を事例的にとりまとめたらどうかと考える

これまでの北海道で取り組んできた砂防事業の紹介、レビュー等も重要かと思います。温故知新。

北海道の砂防は本州と成り立ちが違います。過去の歴史をしっかりと踏まえることが重要と考えます。また過去の整備された個所が今どうなっているかの検証も重要と考えます。

歴史見ると本州の地先の砂防とは異なり、北海道は流域全体でとらえた砂防が主体でした。河川との連携の上で地域が整備されてきたことは特質としてあげられるでしょう。今の流域治水の先駆けです。琴似発寒川、芦別山系が事例です。

これからは火山砂防、道東の砂防(今まで降雨が少なく砂防の整備が遅れてきた道東は今後の気象変動の変化で必要性は増えると考えます。H28災害がその例です。)が大きな柱になると考えます。このことを強く打ち出すべきと考えます。

シニアアドバイザーの元北海道職員の方々の奮起を期待しています。

北海道のコミュニティの成立のためには都市間ネットワークの保全を重視すべき

砂防計画の実務の中では、「北海道砂防計画論」を参考とすることはできても、活用することは難しいと感じています。活用するとなると、各種技術基準等との関係をはっきりさせることやインターネットによる公開などにより技術者に周知する必要があると思われます。また、流木対策、透過型砂防堰堤など近年の砂防技術の進歩や高齢化や保全対象の減少など、「北海道砂防計画論」発行以降の技術、社会環境の変化に対応したアップデートも必要だと感じられます。

非常に良い、重要な取り組みだと思います。活動・成果を期待しています。

北海道は、保全対象の空間分布から、土砂、水、流木の氾濫原を先行的減災空間として確保できる可能性がある箇所が多い。道南等では、本州の人口稠密地域のように谷出口の堰堤で土砂を全量捕捉する必要がある場所もあるが、その必要がない場所は、氾濫原を様々なステークホルダーとの合意形成のもとに遊砂空間として確保し、そこで除石や徐木等の維持管理を実施していくことが望ましい。北海道の今後の砂防計画にはぜひこの点を積極的に組み入れてほしい。また、近年、全国的に常態化しつつある広域複合災害の減災について、土砂災害と他の災害、例えば洪水災害等との複合・連鎖シナリオの作成と効果的な減災のための計画手法を砂防部局と他部局との連携のもとに作成する体制を整備してほしい。

北海道砂防計画論の検証は大事だけれど、こだわりすぎない方が良い。

人口減少、税収減(インフラ整備予算の減少)、既存インフラの維持管理費の増加などの現実を踏まえた上で、他分野(河川、治山・森林、農業など)との連携や統合の可能性などこれまでの延長線ではない発想も必要と考える。しかしながら、社会(政治・行政)の現状を踏まえると、既存計画の改善改良を目指すことが現実的かもしれない。

北海道の生産空間の重要性とそれ保全することの意義をより強く打ち出すことが必要ではないかと思います。